



はなのき

神坂小学校だより No.12 2025.2.21



「藤村生誕祭」で6年間の積み重ねを披露

校長 伊藤 博章

2月17日の月曜日、馬籠宿で「藤村生誕祭」が行われました。藤村先生の生誕153年だそうです。地域の偉人に敬意を表し、ずっと大切にされてきた行事です。「今年度も神坂小学校の三味線演奏をお願いします。」という依頼を受け、6年生が演奏をさせていただきました。こきりこ節神坂バージョンからはじまり、木曾節・津軽じょんから節を演奏した後、アンコールの花笠音頭で締めました。

神坂小学校の子供たちは、1年生のときから一人一竿の三味線を持ち、朝活動や総合的な学習の時間を使って練習をしています。一朝一夕のものではなく、まさに毎年の積み重ねで培った技術です。6年生のこの時期は、卒業式での最後の演奏に向けて、今まで磨いてきた技術の集大成として仕上げているところです。その段階での演奏を多くの方々に聴いていただき、たくさんの大きな拍手をいただきました。また一つ、自信を高めることができた素敵な時間でした。



「三ズの川」から「五無主義」へ

そして「今の子供は六（む）ズかしい」

先日、我が家で書類の整理をしていたら、私が初任のときに配られた通信が出てきました。1989年の通信なので、今から35年ほど前になります。当時の生徒指導主事の先生が書いて職員に配ったものですが、興味深い内容なのでその一部を紹介します。

見出しにある『三ズの川』とは…遊ばズ、学ばズ、動かズ。『五無主義』とは…無気力、無責任、無関心、無感動、無作法。「最近の子供たちは…」と、大人たちがその時代の子供たちの姿を見て使った言葉である。そして最近は、『六ズかしい』と言うそうである。その六つの”ズ”とは、箸が持てズ、リンゴがむけズ、一人で起きられズ、木に登れズ、トンボがつかめズ、敬語が使えズ、を言うそうである。

そういえば、箸を正しく持てない生徒を多く見る。牛馬の類いでも、朝が来れば自分で起きる。それが動物界で最高の地位にある我ら人間様にできない。生活時間帯のくるいは、生理面のくるいを生じさせている。

「危ないからやめなさい。そんなことして遊んではいけません。」と言って、遊びそのものや遊び場の規制をすることは、転んで手をついただけで骨折するひ弱な子供を作り出している。木に登れズ、さもありなんと思えるところである。

さて、最後の”ズ”は、敬語を使えズであるが、敬語どころか基本的な言葉遣いさえもできないというのが現実である。相手に聞きたいことを細切れでしか話せない生徒があまりにも多い。生徒たちは、どう話していいのかが分かっていないのである。「分かっていなければ、教える」ことが大人の役割である。そしてその指導はタイムリーであればあるほど効果が高い。

この時代から約35年後の今の子供たちはどうでしょう。「日本の子供たちは自己肯定感が低い」などとよく言われます。彼らがたくましく生き抜く力をつけるために、「我慢する・耐える・知恵を出す・仲間と感動を共にする・働いて体を動かす」などのことをどうやって経験させるか。「まずはやってみる」ことで身につく成功・失敗体験をどれだけ増やすことができるか。私たち大人の知恵の出どころです。